

プロジェクト研究『ゴミゼロ型・資源循環型技術に関する研究』の充実について
 (建設廃棄物の合理的な再資源化技術に関する研究)

1. プロジェクト研究『ゴミゼロ型・資源循環型技術に関する研究』の概要

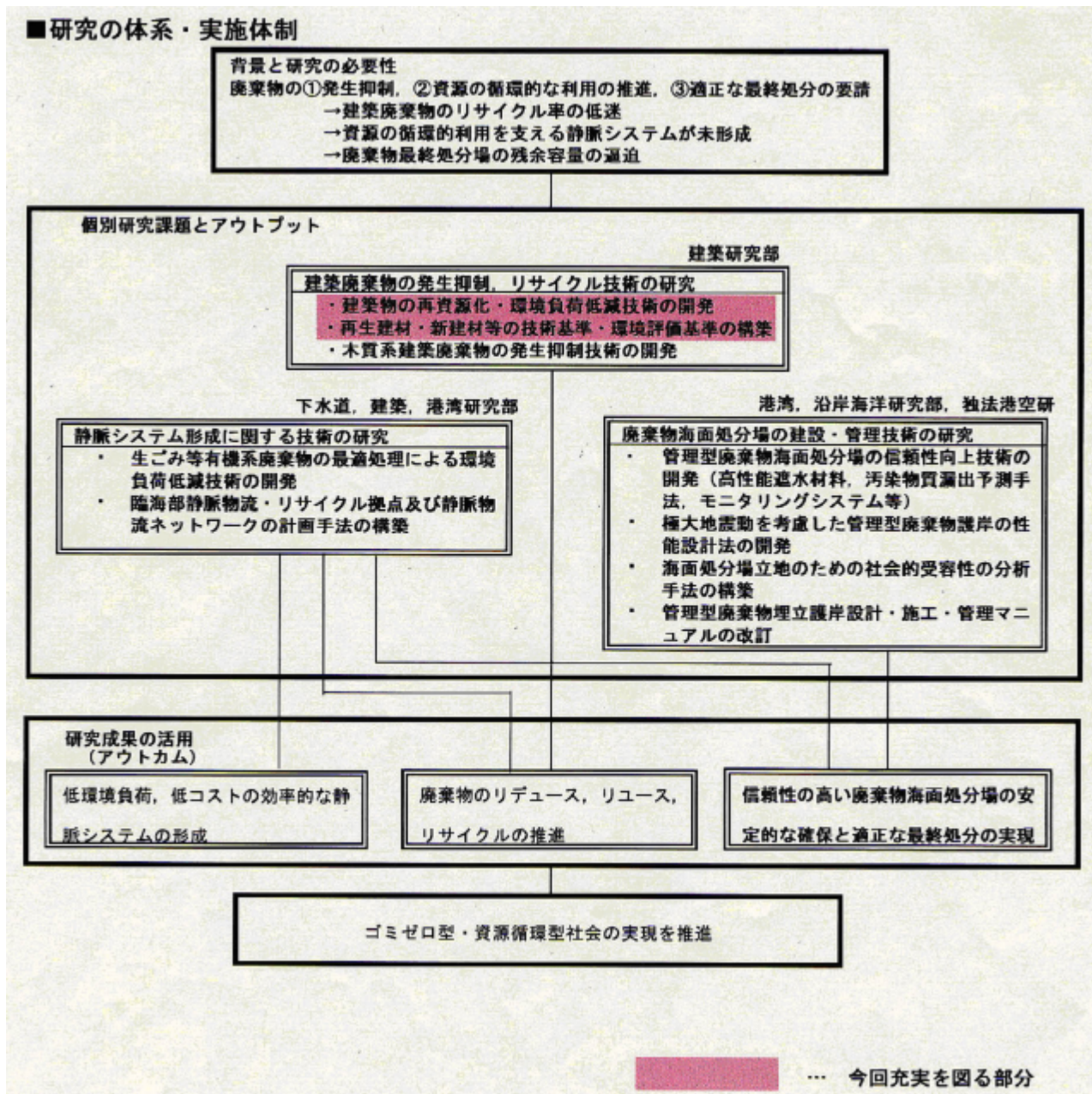
技術政策課題： 地球環境への負荷の軽減

サブテーマ： (4)ゴミゼロ型・資源循環型技術の構築

プロジェクトリーダー： 港湾研究部長 山本修司

関係研究部： 港湾研究部、下水道研究部、建築研究部、沿岸海洋研究部

研究期間： 平成 13 年度～平成 17 年度

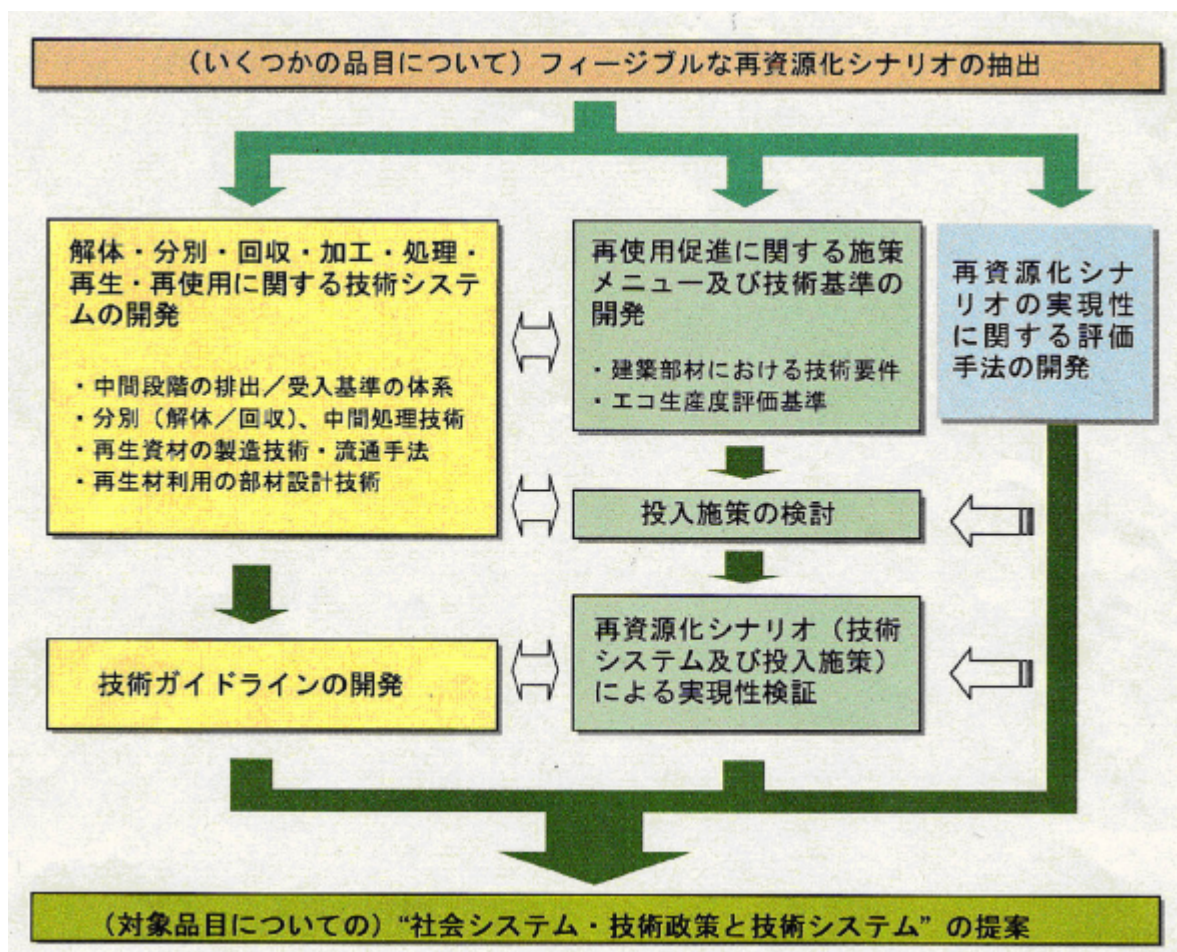


混合廃棄物に含まれる可能な限り多くの資材の循環が実現可能な再資源化シナリオの設定
再資源化シナリオ実現のための技術的条件の明確化。例えば、

- * 再生資材の用途に応じた材料規格を含む、中間処理製品の品質規格等 (シリーズ)
 - * 再生資材活用型の建設基準、設計基準 (再生資材を組み込んだ部材の標準仕様等)
 - * 建築プロジェクトにおける「エコ調達 / エコ建築生産」度 (スコア) の評価・公表基準
- 経済的ファイジビリティを与えるために必要な施策的インプット (投入施策)。例えば；

- * 建築基準 設計基準における材料規定の合理化
- * エコ調達 / エコ建築生産を支援 誘導する諸制度 (補助制度、公的事業による優遇調達持度、建築プロジェクトの「エコ度」評価・公表制度等)

上記シナリオの最も有効なものについて、実現のための条件群を明確にして、技術政策・社会システムの枠組みとそれに適用される技術システム”のパッケージとして提案



④ 期待される効果等

建築物の解体、分別、回収、再生利用という廃棄物の再資源化に関わる各段階をつなぐ仕組みの提案・普及により、建設資材の資源循環について適切な技術開発・製品化が行われ、建設産業におけるリサイクルの拡充が図られる。これにより、建設混合廃棄物の排出量縮減目標の達成 (平成 22 年度において平成 12 年度比で 50% 縮減*)、建設廃棄物全体の再資源化 縮減率の向上 (平成 12 年度の 81% から 10 ポイントアップ*)が見込まれるとともに、今後の建築物の大量更新の時期に向けて新たな産業の創出が期待できる。

* 建設リサイクル推進言 1 画 2002」における目標

2 今回追加する研究項目の概要

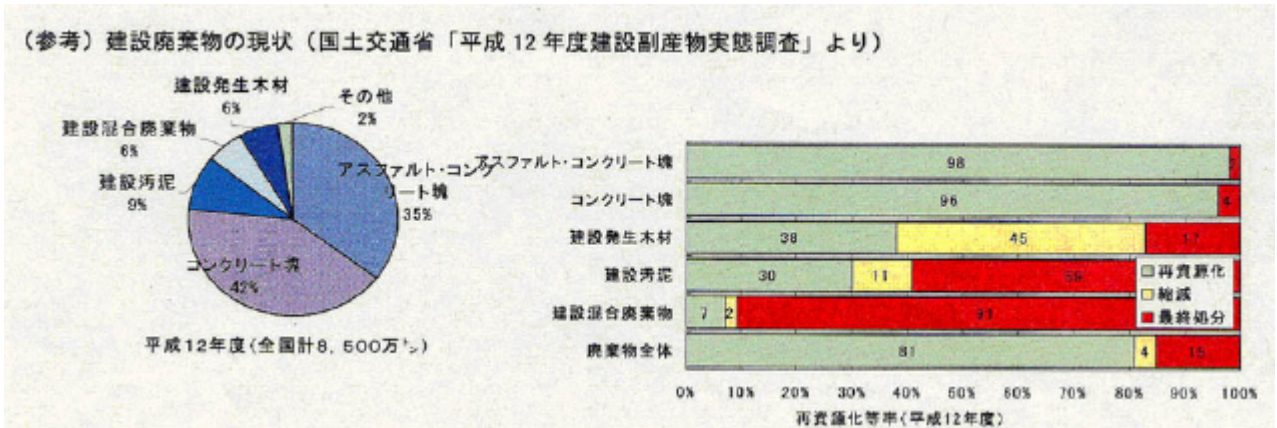
項目名： 建設廃棄物の合理的な再資源化技術に関する研究

担当研究部：建築研究部

研究期間：平成 15 年度～平成 17 年度

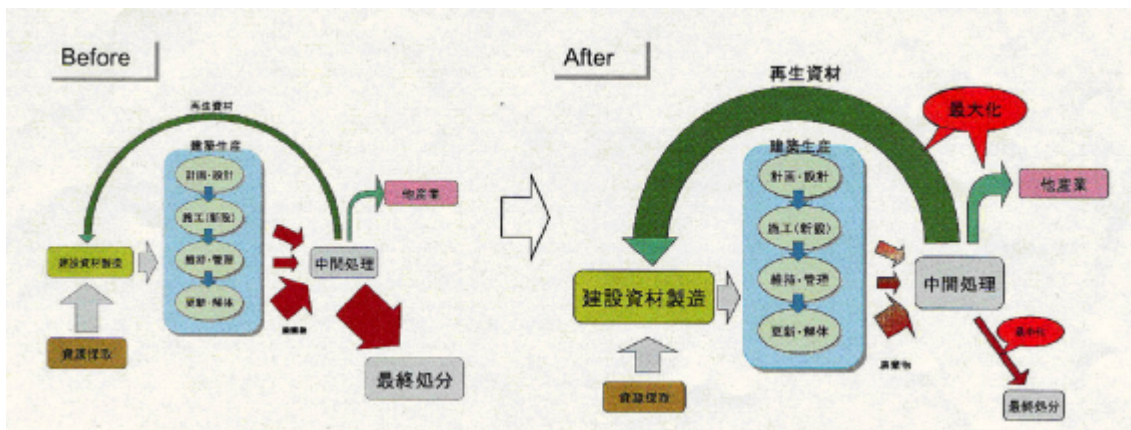
(1) 背景

建設リサイクル法で指定されているコンクリート、木材等の特定建設資材廃棄物に比べ、混合廃棄物はその約 9 割が廃棄され再資源化 縮減率が特に低迷している。循環型社会の実現をさらに目指す観点から、これらの発生抑制、再資源化を進めるための研究技術開発が求められている。しかし 市場の経済原理のもとでの再資源化 (高付加価値化等) は既に限界に近づいており 廃棄物の再資源化を促進し最終処分量の縮減を実現するには、経済原理を補完するなんらかの施策の適用と社会システムの構築が必要であり それを念頭に置いた技術開発と施策検討が必要となっている。



(2) 目的

上記の背景を踏まえ、混合廃棄物について、より一層の再資源化を促進し最終処分へ回る量・率の最小化を実現するための技術システム及び技術政策・社会システムを開発し提案する。



(3) 研究内容

混合廃棄物に含まれる資材のいくつかの品目について、これらの再資源化を可能とするための再資源化シナリオ (技術的シナリオ) を、経済性・環境負荷 (エコ) の観点からも社会的に受容可能であることを検証しながら開発し、さらにこのシナリオを適用してより積極的な再資源化を誘導しうる技術政策・社会システムの枠組みを開発し提案する。